

# ニジェール支所便り

## 4月号

【編集長】松本支所長 【編集担当】保久企画調査員

Tel: (227) 2073 5569 Fax: (227) 2073 2985 E-mail: ni\_oso\_rep@jica.go.jp

### 松本支所長が 2KR2012 の肥料引渡式 に出席

貧困農民支援（2KR）については、2013年6月に実施された行政事業レビュー公開プロセスにおいて、「援助の目標設定や効果指標が不十分であり、PDCA サイクルの確立を含めた有効な援助の仕組みを整備すべく援助のあり方を抜本的に見直すべき」との意見により「事業全体の抜本的改善」との評価が下されました。これを受け、外務省が検討を行った結果、2014年度より本制度を廃止することとなりました。ニジェール国政府より2KR 継続の強い要望があるだけに非常に残念ですが、ニジェール国における2KR は2012年度が最後となりました。この最後の2KR の肥料引渡式が2015年3月4日、ニジェール国農業資機材供給センター（CAIMA）の本部にて執り行われました。在コートジボワール日本大使がご欠席であったことから、松本 JICA ニジェール支所長が日本側代表として出席しました。松本支所長より、「日本政府は2KR2012として、5,286.2トンの肥料、総額にして3億8千万円、現地通貨で19億FCFA分をニジェール政府に供与します。ニジェール政府はこの2KR を活用して、農業生産を改善し、食糧自給に少しでも近づくように望みます」とスピーチしたところ、ニジェール側代表として参加した M. ILLA DJIMRAO 農業省次官は「本日、日本政府より供与された2KR は、M. ISSOUFOU MAHAMADOU ニジェール国大統領が推進している3N イニシアティブ（（ニジェール人によるニジェール人のための食料生産））の目的に合致しており、今年の農業生産活動時にこの肥料を利用することにより、農業生産高を高めることが可能になるであろう。農業大臣に成り代わり、日本政府に感謝の意を表したい」との返答のスピーチを頂きました。（保久企画調査員）



引渡の様子（左より、CAIMA 総局長、JICA ニジェール支所長、肥料袋を挟んで農業次官）



5,286.2 トンの肥料の内訳（NPK:3,157.4 トン、DAP: 2,128.8 トン）

## VRACS プロジェクト 小手川 隆志専門家の自己紹介

「サヘル地域における貯水池の有効活用と自律的コミュニティ開発プロジェクト」に、組織化2として着任しました小手川隆志と申します。私は、大学～大学院時代は土壌学を専攻し、マレーシア、ラオス、ベトナムにおいて土壌調査を含むフィールドワークを行ってきました。また、在学中にはベナンにある WARDA（アフリカ稲研究センター）において、2ヶ月間のインターンシップを行った他、現在の会社に勤めてからは、ジブチで3年間に渡る農業セクターの開発調査に携わりました。

ニジェールの気候は、降水量が少なく日中の気温も 40℃を超える日が続くと聞いております。ジブチの気候もニジェールと類似しており、ニジェール空港に降り立った瞬間は「ああ、またこの暑さか」と思わず舌打ちをした私ですが、サヘルホテル到着後、ニジェール川を見渡せる屋外テーブルに腰を落ち着かせ、ハルマツタンで霞む景色を見ながら、串焼きを肴にカステルビールを飲んだところ、これがまた最高に気持ちが良い、「この一杯のためなら、どんな仕事でも頑張れる」と確信致した次第です。

そんな私の本案件における業務は、プロジェクトの支援を受けて組織された貯水池管理組合の活動状況の把握・分析と、その結果に基づく再研修の実施が中心となる予定です。正直なところ、現場を直接見ることなく遠隔操作で正確なモニタリングが可能なのか、不安に思うところはあります。一方、本案件で雇用しているローカルスタッフやC/Pの勤務態度は真面目で、優秀な人材が多いと感じています。彼らの力を上手く活用し、質の高いアウトプットが出せるよう努力したいと思っております。

（VRACS 小手川 隆志）

## H24 年度ニジェール国中学校教室建設計画の紹介

去る3月11日に施工会社を選定する入札公告を行いました。ニジェールの国内企業が対象です。ニアメ市内の中学校11サイトに教室棟105、管理棟6、トイレブース36を建設します。4月末に入札を行い、特に問題なければ、5月末に契約締結、6月上旬に工事着工の見込みです。

机や椅子は別途入札を行い、納入会社を選定します。

教室棟の工期は1階建てが15か月、2階建てが短いもので17か月、長いもので19か月です。管理棟やトイレブースもほぼ同様です。これはコミュニティ開発支援無償で求められる教室の品質を確保するためです。ニジェールの自然環境や施工会社の技術力及び資金力等が考慮されています。皆さんご存知のとおり、自然環境も治安情勢も厳しい状況ですが、関係者の協力により、過去に一般無償で建設した教室のように、10年、20年が経過してもヒビひとつ入らない品質の高い施設を作りたいと考えています。

本プロジェクトはコミュニティ開発支援無償の一環として実施されます。JICSは毛利建築設計事務所とともにローカルリソースを活用したプロジェクト運営を行っています。

(JICS 金澤 仁)

ロット分けと各サイトの施設詳細

ロット	コード	学校名	教室棟					管理棟	トイレブース		
			1階建て			2階建て			生徒用	教員用	
			2 SDC	3 SDC	4 SCD	2-6SD C	2-8SD C				BA
LOT N001	I-5	CEG ROUTE TILLABERI			3			1		2	1
	II-3	CEG KOIRA TEGUI		2			2				
	小計		0	2	3	0	2	1	0	2	1
LOT N002	IV-3	CES ROUTE FILINGUE			1						
	IV-5	CES AEROPORT 2		1	1			1		2	1
	FA-2	CEG FA AEROPORT			2			1		2	1
	小計		0	1	4	0	0	2	0	4	2
LOT N003	I-1	CEG FRANCE AMITIE NIGER			2						
	II-4	CEG DAR ES SALAM		1	1						
	II-5	CEG DAN ZAMA KOIRA	1	1				1		2	1
	小計		1	2	3	0	0	1	0	2	1
LOT N004	FA-3	CES FA RIVE DROITE	1			2			1		
	V-3	CEG SAGIA					1	1		2	1
	V-4	CEG NORDIRE	1				1	1		2	
	小計		2	0	0	2	2	2	1	4	1
合計			3	5	10	2	4	6	1	12	5
			105					6	36		



現在の藁葺き教室



完成予想図



一般無償で建設した小学校教室  
(1996年)

## プロジェクト・専門家等の活動の進捗状況紹介

### ■■■サヘル地域における貯水池の有効活用と自律的コミュニティ開発プロジェクト(VRACS)■■■

<http://www.jica.go.jp/project/niger/001/index.html>

#### 【Niamey での FFS 活動 Tondi Koirey サイト】

VRACS のニアメ州での FFS 活動は昨年(2014)の 12 月より第 2 期目に入りました。今期もニアメ州内に 2 つのサイトを選定し、普及員の実施する FFS を普及・技術移転局職員と日本人専門家が支援するなか活動を開始しています。

2 サイトのうちの一つである、Tondi Koirey サイトでは、メンバーが女性だけの FFS となりました。対象となる組合員が女性だけであるのがその理由です。当初はモデルとして女性だけのグループは適しているのかという議論がありましたが、関係者の推薦やタウア州、マラディ州でもそのような事例もあることから、女性グループを対象に FFS を実施する事としました。同グループの FFS は、2015 年 1 月より本格的な活動が開始しており、3 月の時点では AESA (Agro-Ecosystem Analysis : 植物観察・分析) も 7 回を数えています。と書きますと、順調に活動は進んでいると思われませんが・・・。なかなか一筋縄では行きません。

AESA の活動では、文字を読み書きできる人が限られていることから、観察結果を模造紙に書き出すのに 1 時間ほど要するなど、四苦八苦です。また、家事があるから・・・等開始時間に集まっている人は数名・・・、途中で帰る人がいるなど課題が散見されています。しかし、ここで放り出しては「FFS に不可能はない」と普及員に対して説明している我々の存在意義がありません。一つ一つの課題の根本を見つめ、FFS メンバー、普及員、普及・技術移転局職員と協議しながら、指導・改善をしています。たとえば、FFS の実施時間について再度議論し、家事との時間の調整を考慮して、9 時開始を 10 時開始に設定し直しました。あわせて、同時にこの開始時間をメンバーが守ることを徹底させるため、遅れたメンバーに対して罰金を科すような取り決めがメンバー間で行われました。この結果、翌週にはセッション開始から 15 分ほど、ほとんどのメンバーが出席するように改善されました。また、この開始時間だと 13:30 頃までセッションが継続するため、お腹が減ることで集中力が切れた、昼食の準備のために途中で帰ってしまうことが危惧されましたが、グループダイナミクスの時間に、自分達で用意した重湯を取るようにするなど、グループなりの配慮を考えて解決しています。

文字の読み書きに関しては、当初2名以外のメンバーのほとんどは読み書きができないと普及員や DVTT 職員は理解していました。しかし、メンバーを観察していると実際には4名が識字教育を受けているにもかかわらず、自信がない、恥ずかしいなどの理由からか、読み書きできないと表明していたことがわかりました。そこで、この4人を中心に4つのサブグループに組み直してセッションを継続する事を提案しました。一方で、識字教育を受けたメンバーであっても字を書き慣れていないので、AESA チャートの作成には他グループと比較してかなり時間がかかることが想定されます。この問題に対しては AESA チャートの書式を識字レベルにあわせて簡略化することにしました。FFS は識字教育後のプラクティスの場としても重要な意味合いをもつものであり、長い目で見た改善・指導が必要と考えています

以上のようにまだまだ発展途中のグループですが、このグループのグループダイナミズムにおいて、全員で歌を歌う等、非常に活気のあるダイナミズムが見られます。その時の団結力と楽しんでいる姿はなかなかの迫力です。本サイトの担当普及員も女性です。普及員は妊娠中で、もうそろそろ出産と思われそうですが、毎回のセッションに参加しています。普及員とメンバーが一体感を持ちつつ、よい方向に参加者の気持ちに変化し始めているのではと感じています。

(農業普及担当：長井専門家)

	
<p>AESA プロセッシング (識字者がほとんどおらず、作業に時間がかかる)</p>	<p>専門家によるファシリテーション指導 (実際にやって見せる事で、普及員もやるようになる)</p>
	
<p>グループダイナミクス (歌踊) (他 FFS で見ない歌踊の活用。だが内容はまだ宗教歌)</p>	<p>グループダイナミクス (給食) (開始時間変更に伴い、お昼の栄養補給が追加された)</p>

## ■■みんなの学校：住民参加を通じた教育開発プロジェクト(EPT III)■■■

今月3月みんなの学校プロジェクトでは、国内、国外合わせて総勢およそ140名の参加を得て、『みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー』をニジェール首都ニアメにて開催しました。当該地域経験共有セミナーは、JICA支援により学校運営改善プロジェクトを実施している周辺国の関係者が一同に会し、各国の経験を共有するとともに、域内共通の問題および対策を協議する場として、2006年より各国持ち回りで実施されてきたものです。昨年度2月にはセネガルのダカールにて開催され、定期的な当該セミナーの開催が提言として挙げられたことを受け、ニジェール教育省のイニシアティブの下、2015年度のニジェール開催が決定しました。



今年度は例年通りのブルキナファソ、マリ、ニジェール、セネガルといった「みんなの学校プロジェクト群」関係者に加え、マダガスカル、コートジボワールから教育省ならびに JICA 関係者、ガーナ、ケニア、ブルキナファソから個別専門家も参加し、既存のプロジェクト実施国のみならず、広くこれらみんなの学校群の経験を他国ならびにドナー等に共有することも一つの目的としました。また、今年度初めての試みとして、セミナーの討議テーマである“コミュニティと地方行政の協働による教育開発”と“成果の得る学校補助金”においては、「パネルディスカッション」形式を採用し、各国からの代表者のみならず、国際基督教大学、広島大学（元 JICA 研究所所属）、ケニアツタ大学（IIEP/UNESCO の紹介）の研究者、および世銀からモデレーターおよびパネリストとしての参加を頂き、非常に積極的な討議が繰り広げることが出来ました。その他、三つ目のテーマである“コミュニティ参加を通じた教育の質の改善活動”においては、ニジェールとセネガルで実施されている“算数ドリルを用いた補習活動”を優良事例として共有するとともに、それを実践するニアメ市内の学校視察も行いました。この4日間のセミナーでは、各国の共通的な課題に対し、実際の取り組みを中心に議論しましたが、それによって参加各国共に具体的かつ実現可能な提言、ならびに今後の活動戦略へと結びつけることに繋がったと言えます。

今回のセミナー開催にあたっては、ニジェール教育省の省令により地域セミナー開催準備委員会が設立された上、教育省からも一部開催経費の負担がなされ、まさにニジェール国教育省と JICA の共催となりました。そのニジェール教育省のイニシアティブに加え、本部、ニジェール支所をはじめとして、参加頂いた皆様のご協力のお蔭で無事4日間を終えることが出来ました。ここに改めてお礼申し上げます。

(影山専門家)